



宇和島城通信

9

2017.3



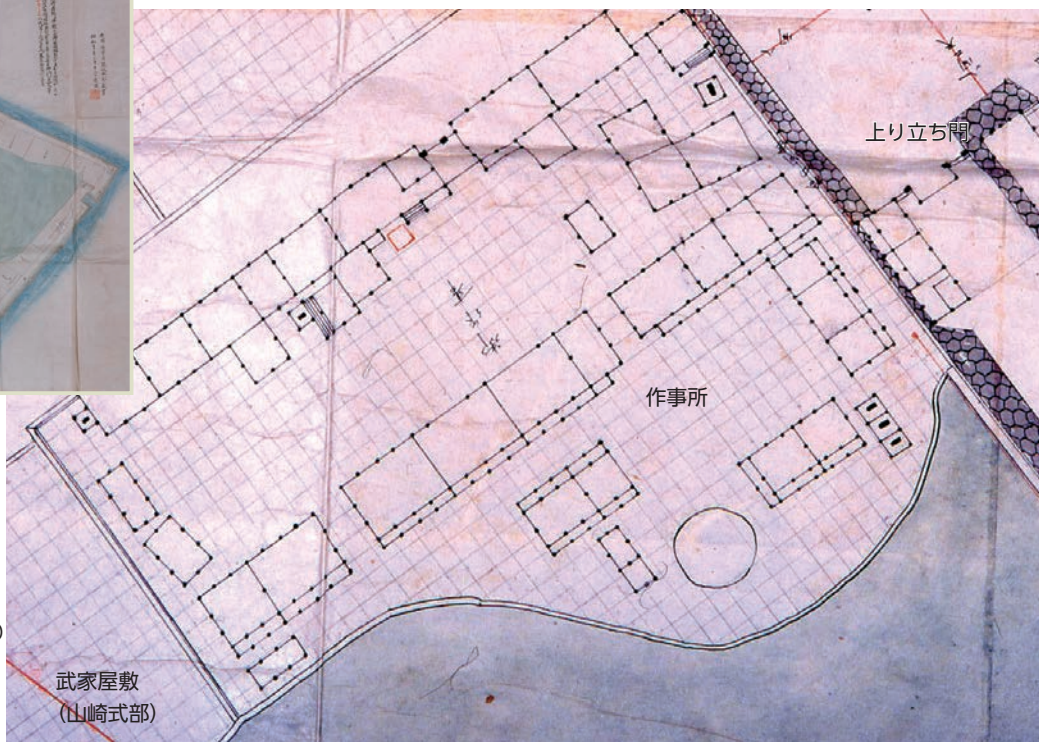
宇和島城の南山麓にあたる旧たばこ産業宇和島営業所は、平成28年3月1日に宇和島城の国史跡指定地に追加指定をされました。そして、本年度国からの補助を受けて、その用地を市が買上げました。この場所は江戸時代には「作事所（さくじしよ）」という藩の施設と上級武士の屋敷地があった場所になります。今回は、このことについて、皆さんにご紹介します。

【上の写真】宇和島城下絵図屏風（伊達博物館所蔵）1700年頃の宇和島城下の様子を描いた絵の南山麓の部分です。中央に描かれている門が、今も残っている「上り立ち門」です。その門の向かって右側が旧たばこ産業宇和島営業所のあたりとなります。門寄りの小屋のような部分が「作事所」（この絵には「作事小屋」と記されています）、その右側の屋敷が武家屋敷となります。

【左の写真】遺跡の残り具合を調べるために試し掘りをしたところ、当時の石組や焼き物がたくさん見つかり、この敷地内には江戸時代の痕跡が良好に残っていることが確認できたため、追加指定を受けることができました。

80年目の真実！？

今回の追加指定地は丸之内2丁目にあたり、その面積は約3,800㎡となりますが、今からの宇和島城の保存と活用を考えた上で、とても大事な場所といえます。



① 宇和島城絵図 (正徳元 (1711) 年)
公益財団法人宇和島伊達文化保存会

【上】伊達家に伝わる城絵図の多くは、堀まで描かれています。江戸時代の人々も平山城と認識していたことがわかります

【右】追加指定地あたりの拡大 (上の図の赤丸部分) です。いろいろな建物が建てられていたことが伺えます。今からの調査が楽しみです

◆ 宇和島城は平山城^{ひらやま}

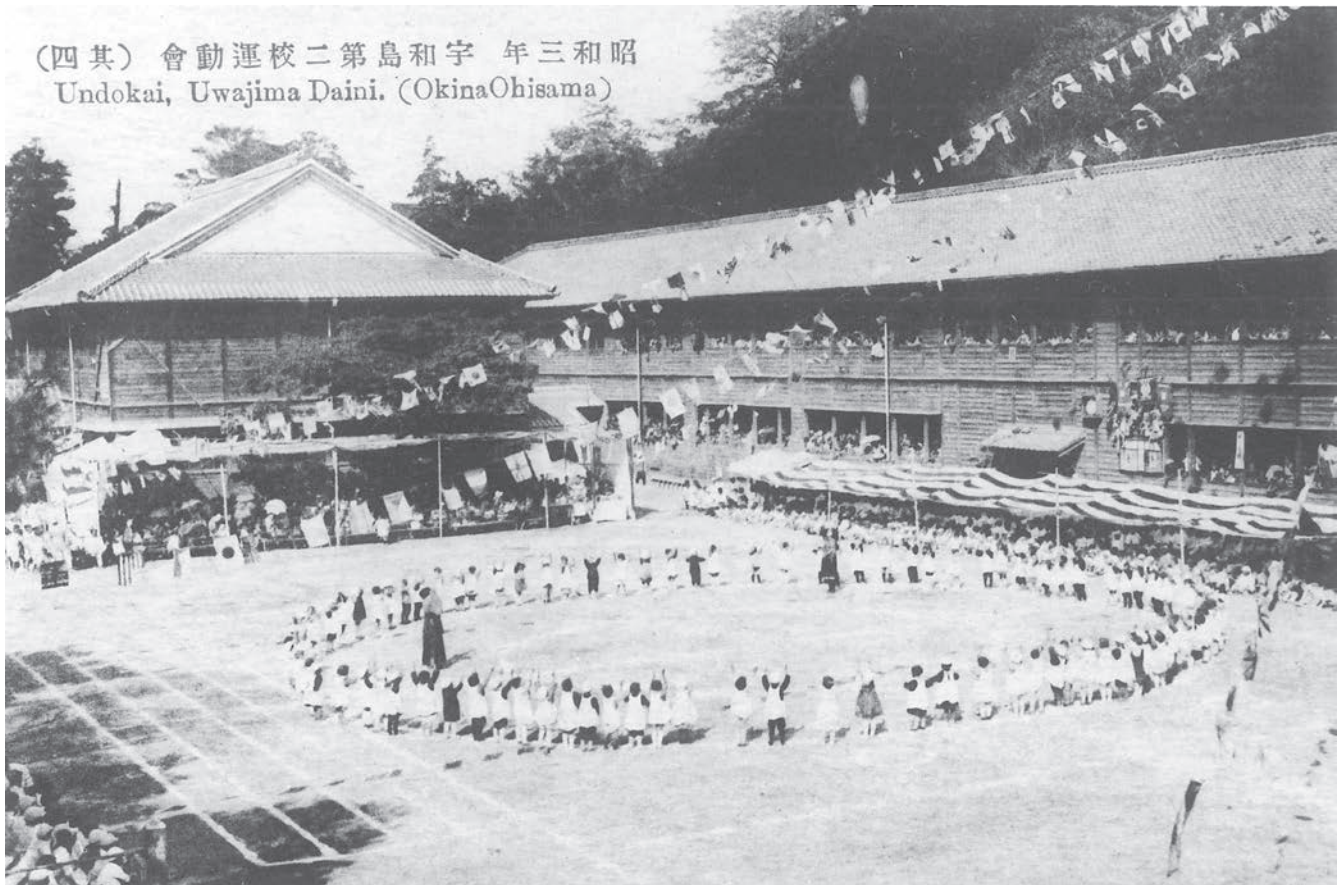
宇和島城は、もともと麓の御殿や武家屋敷群やそれらを取り囲む堀などの平地部分と、本丸や二之丸といった郭群のある山上部分がセットになって城の機能を果たす平山城という部類の城にあたります。しかし、昭和12年に宇和島城が国指定史跡となった時には、山上部分だけが指定を受け、平地部分は市街地化されていたことから指定範囲からはずされてしまいました。今回の追加指定地は学校用地だったことを理由にはずされてきました。そしてその後も平地部分は追加指定を受けることなく、宇和島城＝お城山という「山」の部分のみが保存されてきましたが、80年経った今、ようやく平地部分が加わり、平山城に戻ったのです。

◆ 武家屋敷から作事所へ

すこし、この土地の遍歴を振り返ってみます。今のような宇和島城や城下町が出来上がったのは慶長元 (1596) 年に藤堂高虎が宇和島をはじめとした南予一円を治めるようになってからですが、その頃この場所は武家屋敷として利用されていたようです。その後宇和島伊達家が入封、2代藩主宗利がおこなったお城の改修、いわゆる寛文の大改修 (寛文4 (1664) 年～寛文11 (1671) 年) 頃に、武家屋敷の区画を変更し、作事所ができたと絵図などから推測しています。そして明治を迎えるまで、この場所は作事所と武家屋敷の一部として利用されるのです。



試掘調査の出土品。皿や瓶 (左)、火入れ (中) などの雑器から、ロウをつくる皿 (右) も見つっています



昭和3年 宇和島第二尋常小学校の運動会の写真

さて、作事所というのはどのような場所だったのでしょか?「作事」というのは、今の言葉におきなおしますと、「建築」の事を指します。つまり城や御殿などの藩の建築物の営繕を行っていた場所なのです。表紙の屏風絵を見ると、大工職人が数人で木材加工している様子が確認できます。

◆ 学び舎から民有地へ

明治以降、この場所は学校用地として戦後まで利用されてきました。まず作事所だった区域が明治5年から20年まで二番小学校(章成小学校)、同24年から同29年3月まで私立明倫館、同29年4月から同32年6月まで県立尋常中学校南予分校、同32年10月から町立宇和島高等学校、明治37年から女子尋常高等学校とめまぐるしく色々な学校用地として利用されました。武家屋敷地についても明治35年からは宇和島商業学校として利用されるようになります。そして、大正6年に宇和島商業学校が移転し、2つの区画をあわせて宇和島第二尋常小学校(現在の鶴島小学校の前身)として昭和20年の宇和島空襲の被害を受けるまで利用されるのです。そして戦後の復興の中で区画整理が進み、民有地化され、現在に至ります。

◆ 今後の予定

来年度から、この場所を保存活用していく取り組みが始まります。1つは、本格的な発掘調査を実施します。約1,000㎡の区画を調査する予定です。試掘調査で石組や焼き物が多く出土していますので、本調査でどんな成果が上がるかとても楽しみです。現地説明会も開催する予定です。それから、この追加指定地もあわせて約108,000㎡となる史跡宇和島城を保存活用していく計画作りも2ヵ年かけて取り組みます。旧たばこ産業宇和島営業所の建物も有効活用できるよう、検討します。



来年度の発掘予定地(駐車場部分)。市が実施する発掘調査では最大規模の調査となる見込みです

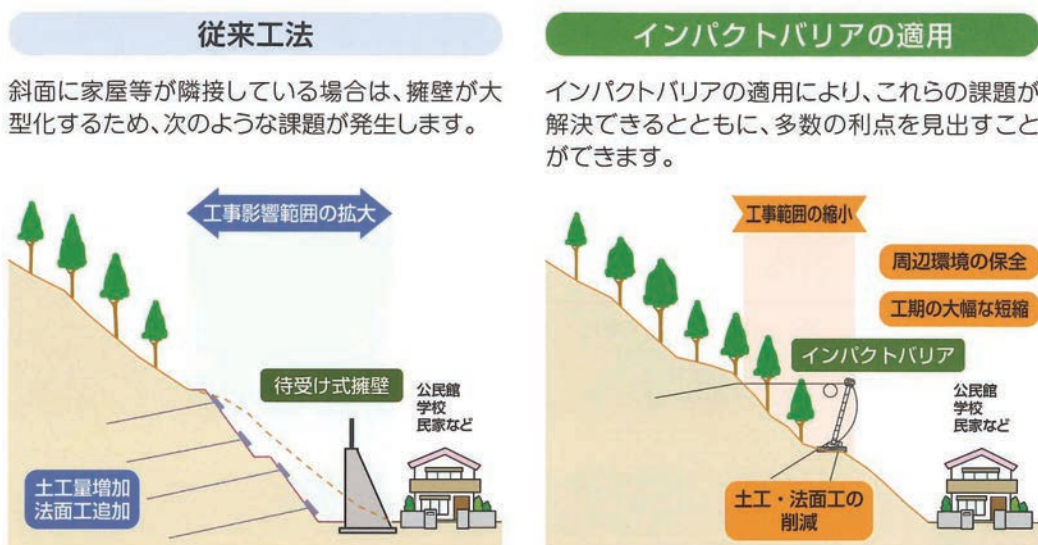
お城・お知らせ・瓦版

◆ 急傾斜地崩壊対策工事しています！！

平成28年度から城山南側の斜面約180mに渡って、急傾斜地崩壊対策工事を愛媛県（南予地方局）が実施しています。下の図にあるように、一般的な工事ではコンクリートよう壁を建てて、樹木を伐採し、斜面を削ったりしていきますが、城山が国史跡であるために、インパクトバリア工法という特殊な工法を採用していただきました。特殊な支柱とネットによるもので、一般的な工法と比べるとコストがかかりますが、ほとんど掘削する事もなく、樹木の伐採も最小限度でとどめることが出来、工事資材も景観に配慮した色に塗るなどして、施工後数年経てば、ほとんど以前の景観とは変わらなくなります。5年後に完成予定となっています。



城山に設置されたインパクトバリア。支柱はこげ茶に塗ってあります



◆ 城山で学んで遊ぼう♪ - 宇和島城城山を守る会

月2回、日曜日の午前中に1時間程度のボランティア活動をしている団体です。宇和島城のガイドをしたり、草木の説明板を作ったり、種を採取して植えて育てたり、お城の夜間開放や天守での宿泊体験などのイベントをしたりしています。年会費500円、いつでも入会できます。文化・スポーツ課担当者（廣瀬）までご連絡ください。

● スズメバチのトラップを設置しています！（3月～4月）

今回で3回目となりますが、スズメバチ捕獲のためのトラップを城山を守る会の皆さんで30箇所ほど設置してもらっています。数年前に、城山でスズメバチの被害にあう方が多くなり、少しでもその被害を少なくするために城守さんたちといろいろ調べてこのトラップを設置するようになりました。

捕獲器は右上のようなペットボトルを利用した手作りのものです。この中に、日本酒・酢・砂糖を2：1：1の割合で配合したものをいれるだけです。殺虫剤ではないので安全です。女王蜂が巣作りをはじめ前のこの時期に捕獲すると、効果的なようです。



少し気持ちの悪い写真ですが、昨年このトラップで取れたスズメバチです。下側の大きなものが女王蜂で、30匹ほど駆除に成功しました！

■ 問合せ先

教育委員会 文化・スポーツ課 文化財保護係 【Tel】 49-7033 【Fax】 22-5058 【Mail】 bunka@city.uwajima.lg.jp